



しもながや

令和4年4月28日 発行

横浜市立下永谷小学校

わかば

校長 鈴木陽一

4月、教室を回っていると、「校長先生おはようございます。」と私に気づいた子が元気にあいさつをしてくれます。「授業中はあいさつはいいよ。」と言いつつも、とてもうれしく気持ちがすがすがしくなります。そんな中、3年生のある教室をのぞいた時に、だれも私に気づかず黙々と机に向かって、真剣に詩をプリントに試写をしていました。

わかば

わかばを見ると

むねが晴れ晴れする。

ぼくら子どもも ほんとは

人間のわかば。

天が ほら。

あんなに晴れ晴れしている。

ぼくらを見まもって……。

まど・みちお



という詩でした。

作者は、『(前略)私は子どもたちに、この「人間のわかば」としての自覚を期待しています。(中略)誇りをもって、胸を張り、堂々と生きていってほしいものです。』と解説に寄せています。

今、校庭では、多くの樹木からわかばが芽吹き、すがすがしさとともに力強ささえ感じられます。また、校舎の中でも、子どもたちは進級をして、毎日誇らしげに過ごしているように見受けられます。1年生は、小学生になったという思いを、それぞれの学年は進級をして、自分が大きく成長したという自覚が芽生えて、やる気に満ち溢れている子が多くいるように思えます。今の思いを大切にしながら、作者のいうように、日々成長していく自分自身に思いをはせて堂々と生きていってほしいものです。そして、成長していく姿を私たち大人は、詩の中の「天」のように晴れ晴れと見守っていきたいものです。子どもたちが成長していく過程で、様々な出来事や壁が立ちちはだかることもあるかと思えます。それをどう乗り越えるか。あるいは回避していくか。方策を見つけ、力を付け成長していくことを信じ育てていきます。そして、子どもたちが安心して伸びていけるよう温かく見守り続けてまいります。今年度も、保護者の皆様・地域の皆様におかれましても、子どもたちの成長を温かく見守りください。そして、本校の教育活動へのご理解ご協力よろしくお願いたします。